
約束は、時計の針が何周しても。

リオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

約束は、時計の針が何周しても。

【Nコード】

N8353C

【作者名】

リオ

【あらすじ】

待ってるよ。あなたはいつ、来てくれる？

今日は日曜日。見上げれば白い粒が微かに舞い落ちる。手は赤い毛糸の温もりに包まれていて、私はそれで口元を隠す。

「寒い……」

ぼつりと呟いた言葉は、植木を挟んだ隣に行く車の騒音と、私を避けながら行き交う人々の足跡や話し声で、簡単に無に消された。腕時計を見ると、午後二時を少し過ぎている。

ふ、と一瞬間が落ちて、軽い溜息が漏れた。

気を取り直し、雑踏の中をきよろきよろ見渡す。暫くして時計を見る。それを、数えられない程に何回も繰り返した。

現在の時刻は七時を指している。視線をアスファルトに落とし、リボンが飾られた黒いパンプスの爪先を見つめた。

「来ないなあ……」

軽く空気を蹴って、不満をばやいた。

私は先週も、その前の週も、日曜日になると、この場所で待っている。

いつも待ちぼうけをさせる、あの人を。

イルミネーションの輝き出した夜の街が、ぼやぼやと霞んで行く。毛糸の手袋で、今度は顔全体を覆った。

うつすら積もった雪が、震える肩からはらりと落ちる。

私は、来週の日曜も、この場所で待つ。

一緒に映画を見た後に、婚約指輪を買いに行く約束をしたのだから。

私のバッグの中には二枚のチケット。左手薬指は、空席のまま。携帯を取り出し、あの人の番号をコールする。

この電話番号は、現在――。その声を、私は無視して

「今どこにいるの？ もうっ。早くしないと映画もお店も終わっちゃうよ？」

答えは無く、通話を切った。

携帯をバッグにしまい、中の二枚のチケットを指で遊ぶ。

頬を伝う涙を赤い毛糸に吸わせて、顔を上げた。

「また、来週……」

白い吐息とともに、その言葉を残し私は人込みに加わった。

また次の日曜日に、私は戻って来る。

歩く背後の信号。隣の道路と交わる十字路の片隅には、真新しい様々な色の花束が複数。雪化粧を施され、美しくも悲しく横たわっている――。

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8353c/>

約束は、時計の針が何周しても。

2010年10月10日11時55分発行